



MALAWI VOICE VOL.12

～アフリカの国・マラウイからのおたより～

青年海外協力隊 平成27年度3次隊

言語聴覚士 飯田知美

ごあいさつ

新しい年度の始まりですね。日本から「小学生になったよ」「幼稚園に通うよ」という連絡を受けるたびに、時間の経過の早さに驚きます。日本に帰って、2年ぶりに広島の子ども達や甥っ子に会うと、きっとその成長にもっと驚くことになるだろうなと思います。マラウイでは年度の変わり目は9月なので、特に変わらない日々ですが、“4月”という響きに、30年近く体と脳に刻まれた「日本の体内季節時計」が、どこか気持ちをピシッと引き締めてくれます。

最近、私の住むチョロ県では急激に気温が変化しています。雨季の雨が落ち着いてきたかと思ったら、一気に気温が低下したり、また豪雨の日が続いて、翌日はまた夏日になってみたり…。あまりの気温の変化に体がついていかず、体調を崩したという隊員や外国人ボランティアの情報を最近よく耳にします。私自身も、初めての発熱を経験し、万が一悪化した時のことを考えると、最寄りの病院が6km以上離れているこの環境に少し恐怖を感じました。さらに、2月頃から私の体は虫との闘いの日々が続いています。雨季に、大量のダニに襲われ、麻疹のような無数の傷跡が今も背中に刻まれています。体の固い私は、自分の背中なのに手で届かないエリアが広く、日本からなんとなく持ってきた「まごの手」が大活躍しています。さらに、日本の時から変わらぬ天敵である蚊に足を刺され、その傷口にハエがたかったことで、感染症（皮膚炎）にもかかりました。日本の通常の生活の中では考えられない感染ルートにより、自分がアフリカにいるという事実を強く実感しました。体がどこもかゆくないという日は、もう記憶にありません。

季節の変わり目ということで、今回はマラウイの季節についてご紹介しようと思います。ネットで調べたり、講義で教わった季節と、実際に過ごして体感する季節はやはり違います。そして、同じマラウイでも、住む場所が違えば気温や目で感じる季節感は全く異なります（日本でも北海道と沖縄では全く異なりますよね）。私はほとんど他の地域に行くことはなく、マラウイの南部で過ごしているため、マラウイ南部、チョロ県ブンブウェの季節を中心にご紹介したいと思います。なかなか文章で日本との違いをお伝えするのは難しいですが、少しでもマラウイの季節感を味わっていただくと幸いです。

2017年4月

飯田知美



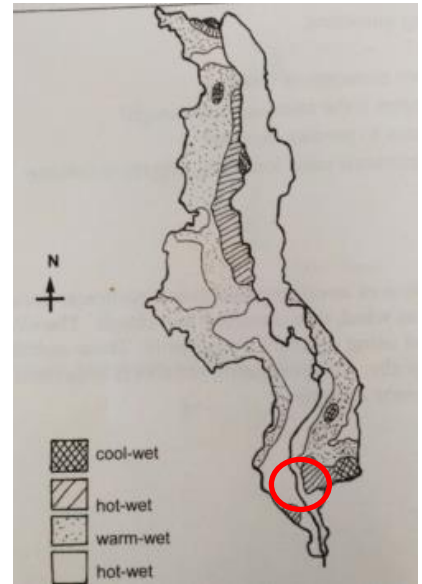
マラウイ (ブンブウェ) の季節



日本と反対の南半球に位置するマラウイでは、基本的に日本とは逆の季節になります。しかし、単純に季節を「春 ⇄ 秋」「夏 ⇄ 冬」のようにひっくり返すわけではありません。今回は「気候」「季節」「それぞれの季節の特徴」についてお話ししようと思います。

1. マラウイの気候

マラウイは大きく分けて「北部」「中部」「南部」の3つの地域に分けられていますが、“気候”という視点では大きく「hot-dry」「hot-wet」「warm-wet」「cool-wet」の4つに分類されています(右図、プライマリースクール「社会科」の教科書より)。私が住んでいるチョロ県はこの教科書では「hot-wet」の分類になっていますが、明らかに同じ分類の湖周辺地域と気候が違います。(ちなみに、一番下の「hot-wet」は「hot-dry」の誤りです。) お隣のムランジェ県と同じ「cool-wet」気候の間違いでは…と思います。標高も高く他の地域で活動している隊員が遊びに来ると、いつも「寒い」「涼しい」と言われます。



マラウイはサバンナ気候に属しています。この国の気候の特徴として、教科書では以下のように説明されています。

- 「乾季」と「雨季」がある
- 夏には大雨が降る
- 年間の降雨量は約 762mm である
- 夏は暑い (約 32°C)
- 冬は涼しい

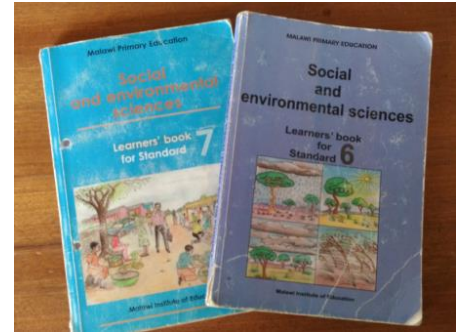
2. マラウイの季節

日本では四季と呼ばれる「春」「夏」「秋」「冬」の4つの季節がありますが、マラウイは大きく分けて「雨季」と「乾季」の2つの季節があります。さらに気温が「cool (涼しい)」か「hot (暑い)」かという要素も含めて分類すると、「cool and dry season (涼しい乾季)」「hot and dry season (暑い乾季)」「hot and wet season (暑い雨季)」の3つの季節に細かく分類されます。

日本の四季は主に気温の変化によって分けられていますが、マラウイの季節は名前の通り、「雨が多いか少ないか」という降雨量が季節の重要な目安になっています。日本ではほぼ一年中、どの月でも雨や雪が降りますが、マラウイの乾季では、全く雨の降らない月もあります。「マラウイのインフラ」でもご紹介したように、生活用水はもちろん、電気もほぼ水力発電に頼っていて、国民の90%以上が農業を行っている国なので、“雨”はこの国にとって非常に貴重です。私も日本では特に雨は好きではなかったですし、梅雨の時期はむしろ嫌いでしたが、マラウイで生活していると、久しぶ

りに雨が降った日にグラウンドではしゃいでいる子供たちの気持ちがよくわかります。
それでは、それぞれの季節の特徴とブンブウエの様子をご紹介します。

小学校の「Social and environmental sciences (社会科)」の教科書です。今はテスト期間で、たまたまテスト範囲に「気候」が入っていたので、今回は生徒とテスト勉強をしながら記事を作りました。



3. 「hot and dry season (暑い乾季)」

「アフリカといえば…暑くて乾燥している」というイメージを持っている方もいるのではないのでしょうか。私はマラウイの勉強を始めるまで、年間を通して全てのアフリカの国が暑くて乾燥していると思っていました。しかし、実は“暑い乾季”は8~11月の中旬までと、すごく短いです。そして、名前の通り、気温が高いだけではなく乾燥しているので、日本の夏に比べるとカラッとしていて、蒸し暑いというより、皮膚がチクチクするような暑さです。マラウイには大きな建物がほとんどなく、外にいる間なかなか太陽の光から逃れられません。私の勝手なイメージでは、アフリカの少年たちは、この強い太陽の下で元気に走り回っていると思っていましたが、この時期は日中あまり活動をせずに日陰や家の中で過ごし、早朝もしくは夕方頃からサッカーや農作業をする人が多いです。

この時期は乾燥のために砂ぼこりがひどく、私の家の横から見えるはずのムランジェ山が見えません。そして、道も写真のようにまるで砂漠のようになります。視覚的にはあまり楽しみの少ない季節です。



この時期のブンブウエマーケットは、パパイヤやマンゴーといったフルーツと、大量のサツマイモが中心に並んでいました。雨が降らず、水も不足しがちなこの時期は、枯れやす

い葉物野菜の栽培は少なく、畑はサツマイモやキャッサバばかりでした。そして、乾季の終わりが近づくと、雨季に備えて、主食のメイズの植え付けが始まります。私が畑を始めたもの10月の終わりごろでした。

私の家の周辺の写真(11月1日)です。樹木以外の緑がほとんどなく、日本人が思い描く“アフリカらしい”景色です。マウンテンビューは風が強いので、屋外に置いている物や洗濯物には、砂ぼこりが火山灰のように降り積もります。



4. 「hot and wet season (暑い雨季)」

11月中旬～4月は雨が多くて、気温も高い季節です。私がマラウイに到着した1月もこの季節でした。ただし、去年は雨が少なかったため、実際には hot and dry season がかなり長期間続いていたような状態でした。この時期は9月や10月のような暑さはなく、雨の日は涼しくて、晴



れている日は暑いという印象です。10月下旬頃に植えられたメイズは、雨季に入ると一気にスクスク成長を始め、マラウイ全国の景色が“緑”に一変します。1月から2月頃には自分の身長以上にメイズが育ち、この時期はどの村を歩いても、大きな幹線道路をミニバスで走っていても、一面にメイズ畑の景色が広がっています。そして3月には、メイズが枯れて収穫期に入ります。

私の家の隣のグラウンドからもきれいにムランジェ山が見え、チョロの中心地付近に遊びに行くときれいなお茶畑が一面に広がっています。雨が多いわりに、停電や断水も発生し、買い物にも行きづらくなるため、生活するうえでは大変な時期ですが、最もアフリカらしい“自然”を満喫できる季節だと思います。この時期のブンブウェマーケットは、写真のように様々な種類の野菜が並んでいます。



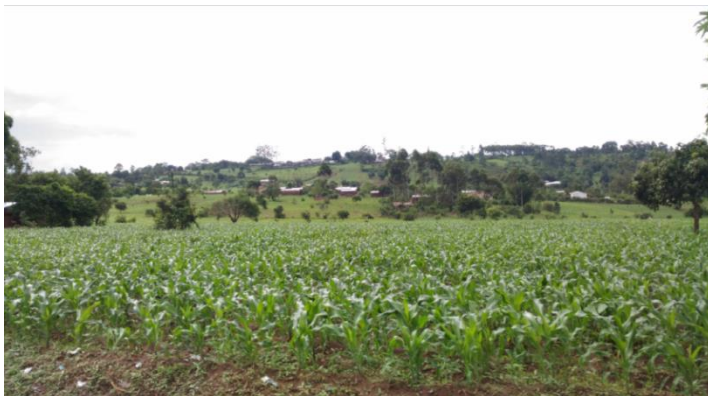
マラウイの季節に関して驚いたことが、季節の変わり目が突然やってくることです。その日の午前中まで乾季だったのに、午後に突然巨大な雲が出現→砂嵐発生→ひょうが降る→雨季到来。気温の変化も日本より大きく、素早く変化します。あまりの急激な変化に頭がつかず、この日は知らない土地に初めて訪れた気分でした。



雨季の雨の勢いはすさまじく、日本なら“大雨・洪水警報”が発令されるレベルです。しかし、一時的な雨が多く、数十分～数時間程で止むことも結構多いです。長く強い雨が降ると、庭が池になります。畑のドロを運んでくるので、掃除が大変です。



最近（3月）の家の周辺（右）と学校のグラウンド（下）の様子です。乾季は日本の校庭のように砂ばかりのグラウンドも、雨季は芝に覆われます。



マラウイ名物？のメイズ畑です。現地の人にとっては大切な一年分の主食の原料です。この写真の時期（12月）はまだ背の低いメイズも、しばらくすると私の身長を余裕で超えていきます。

5. 「cool and dry season（涼しい乾季）」

5月～7月は、気温が下がり、アフリカとは思えない長袖の必要な季節がやってきます。特に私の任地があるチョロヤ、標高の高い地域では、日本の冬と同じくらいの寒さです。気温は氷点下になることもなく、雪も降りませんが、早朝はミスト上の霧雨と強風で、体感温度が一気に下がります。この時期にマラウイに来られる際は、ぜひ防寒具（ジャケット、マフラー等）を持ってくることをお勧めします。“乾季”となっていますが、朝方は霧雨が降るため、空気は乾燥していません。

景色は、緑一面のメイズの収穫が終わり、収穫後放置されたメイズの茎の茶色と、芝生の枯れた茶色で、日本の冬の景色に近くなります。寒さに弱いマラウイアの生徒たちは、日中、日なたの場所を求めて屋外の暖かい場所に集まります。昼間に雨が降ることは少なく、昼は暖かいことが多いですが、夕方以降、一気に気温が下がります。

この時期もいろいろな野菜やイモ類がマーケットに並んでいます。メイズ収穫前の厳しい「ハンガー（飢餓）シーズン」を超え、食料が安定して手に入るようになるため、全国的に犯罪（盗難）件数も減って、落ち着く時期です。

この時期の家の周辺の様子です。朝方は上の写真のように霧で何も見えません。しかし、9時頃には霧も晴れ、夕方になるときれいな景色が楽しめます。





2・3月の活動の様子



活動が始まってから2周期目に入りました。「やりたいこと」「やってみたいこと」「やるべきこと」「できること」「できないこと」「やってもらえないこと」が目の前に並び、日々「何をすべきなのだろう?」「何のためにここにいるのだろうか?」と悩み葛藤しながら過ごしています。2月の初めに同期隊員が首都に集まり、活動の状況を報告する「中間報告会」がありました。日程の都合上、全員の報告を聞くことはできませんでしたが、同じ時期に活動開始した仲間の現状や悩みを聞くことで、励まされました。いくつか、活動の様子をご報告します。

【補聴器ケース作り】

海外の補聴器会社から補聴器が寄付された際に、一緒にポーチのようなケースが一人ずつに与えられています。しかしこのケースですが、補聴器を取り出しにくく、さらに電池を別に収納することができません。そのため、使用後はそのままこのケースに入れられ、しばらく使用しないと電池からの液漏れで故障したり、電池の消耗が早いという問題がありました。取り出しにくくて場所を取ることも、補聴器の使用を心理的に“面倒だ”と思わせる大きな要因になっていると思いました。そこで、家にあったヨーグルトの空き容器、日本から送ってもらったマグネットシートとお茶パック、そして私の主食の米を使って、日本で使っていたような補聴器収納ケースを手作りしてみました。

従来の補聴器ケース。登録者カードや謎のメダル?など、いろいろなものと補聴器と一緒に収納されるため、いつも中はグチャグチャです。



新しく作ったケースの収納方法を担任の先生から説明してもらっているところです。マグネットシートに補聴器の電池をくっつけられる点が好評でした。



【英語基礎講座】

ある日、チェワ語の単語の勉強（英語→チェワ語）をしていた時、近くにいた高学年の生徒が驚くほど単語の意味を知らないことに衝撃を受けました。もともとあまり、授業が理解できていないことは知っていましたが、「tree（木）」「room（部屋）」「hand（手）」などの名詞や、「make（作る）」「have

（持つ）」「study（勉強する）」などの基本動詞も分からない状態なのはショックでした。高学年の生徒たちは、チェワ語以外の全ての科目を英語で学ぶため、この語彙力ではほとんどの内容が理解できていないと思います。

この状況をなんとか少しでも改善したいと思い、英語“超”基礎講座をすることになりました。正規の授業時間は政府により決められたカリキュラムがあるため、放課後の時間を使って実施しています。対象はスタンダード7と8（7、8年生）の生徒。しかし、実際にはスタンダード8の生徒は最終試験への授業が忙しく、2回しかできませんでした。

英語が苦手な自分が人に教える立場に立つことになるとは思っていませんでしたが、できない自分だからこそ難しいポイントが分かるとポジティブに考え、週に1回“先生”になっています。

<授業内容（40分～1時間程度）>

- 単語テスト 20問（うち10問は前回までの中から出題）
→まずは、語彙を増やすことが必要。そして反復して覚える習慣を身に着けることを目指しています。毎回テスト結果の順位を写真カードで掲示することでやる気を促しています。
- 文法授業と問題演習
→「is / am / are」「時制（現在形、過去形など）」などの基本文法の説明と演習。手話で理解をしてもらうことがかなり難しいです。
- 英語相談
→他の授業でわからない単語についての相談を受けたり、スマートフォンを使って実物の写真を見せて、説明しています。マラウイの教科書は手書きのイラストばかりで、名前と実物を結びつけることがかなり難しいようです。

【個別授業】

正常聴力で、知的障害の疑いのある生徒に対して、担任の先生の依頼で、個別授業をしています。毎朝、朝礼後からティータイムまでの間、算数やチェワ語を教えています。

正直英語を教えること以上に、私がチェワ語を教えることには疑問がありますが、本人が嬉しそうに毎日「今日もやる？」と話しかけてくれるので、できる範囲で教えています。教えることで、教材作りのヒントを見つけたり、先生とのコミュニケーションのきっかけづくりになっています。



この日はチェワ語の授業。発音指導のための文字の習得を目指しています。正常聴力なので、物の名前はなんとなく知っています。音と文字を結びつけるのに苦労しています。

～ 活動・生活の様子 ～



2月に開催された謎の「クリスマスパーティ」。授業などの都合で延期されてこの日に開催されたのですが、もはや生徒たちにとって“クリスマス”を祝っているという意識はありませんでした。

マラウイの人々はダンスが大好き。パーティと名がつく場所では大人も子供も音楽が聞こえない聴覚障害児でもみんな楽しそうに踊ります。



今年も8年生の卒業試験（5月）が近づいてきました。この日は模試の日。時間ぎりぎりまでいろいろな場所で勉強している生徒の姿がありました。



政府から届いた大量の木の苗を全校生徒で植える“植樹祭”。マラウイでは木を焚き木として大量に使用するため、環境問題が深刻になっています。学校でも、給食は薪で調理されるため、どんどん木が切り倒されています。



最高学年の生徒は、春休みなしで今年も学校に居残りです。頑張っている生徒の元に家族が食べ物を持ってきました。



配属先の学校で行われた他校との球技大会の日。女子のネットボールは快勝でサトウキビ（景品）をゲット。